YA通信

令和8年夏号

令和８年８月５日発行

富士宮市立中央図書館　ＹＡコーナー
〒418−0067　静岡県富士宮市宮町 13−1　電話：0544（26）5062
図書館ホームページ　https://www.fujinomiyalib.jp/
上の二次元コードからもアクセスできます。

「Young Adult」、略してYA。
コドモ呼ばわりは失礼だけど、オトナと呼ぶにはちょっと早い、
つまり皆さんのような年代の人たちを指す言葉です。

◇夏の特別チャレンジ企画！

大人の読書感想文！？　司書がガチでやってみた！

YAコーナー で募集してる コンクールの作文を YAコーナーの 本を読んで 書いてみた！

中央図書館の YA コーナーに置かれていた、
いろいろなコンクールの募集チラシから
２種類をチョイス！
YA の担当司書が、実際に作文に挑戦してみました！

ただし、特別ルールとして…

◇YA コーナーの本を２冊選び、それらの内容を参考にしつつ作文を仕上げること！

コンクールのテーマも、２冊の本の内容も意識しなければなりません。
つまり２冊の本をチョイスするところから戦いは始まっている！さぁ、どうなる！？

次のページからお楽しみください！

※実際に応募はしていません。（残念ながらちょっとだけ年齢制限をオーバーしているので、応募できません）

作文その①

第 59 回 おかねの作文コンクール

作文テーマ：「おかね」に関することなら自由！

文字数：1,200～2,000 字

主催：金融経済教育推進機構(J-FLEC)

後援：文部科学省 ほか

対象：全国の中学生

特選賞：賞状と図書カード 4 万円分！

応募締切：2026 年 9 月 15 日(火)

◇チョイスした本はこの 2 冊！

NO IMAGE

『麻婆放浪記』

嵐よういち／著

産業編集センター

『資本主義を半分捨てる』

青木真兵／著

筑摩書房

「当たり前だけど当たり前じゃないお金の価値について」

先日、『麻婆放浪記』（嵐よういち/著 産業編集センター）という本を読んだ。旅行作家として長年に渡り世界中を旅してきた著者は、旅先で無性に中華料理、特に麻婆豆腐が食べたくなることがあるのだという。そして、東南アジアでも、アフリカでも、南米でも、中華料理を提供してくれる店というのは案外至る所にあるものなのだ。ところが、世界では我々の「当たり前」が通用するとは限らない。よだれを垂らしつつ入った店で出てくる麻婆豆腐は、豆腐が異様に細かかったり、どう見ても炒め物だったり、赤い色の正体がまさかのケチャップだったり…。世界中の麻婆豆腐を巡る悲喜こもごもが楽しい一冊だ。

旅先での貴重なエピソードも満載だが、愉快なものばかりではない。野犬に襲われかけたり、現地の人から差別的な態度を取られたり、危険な目や嫌な思いをした体験も赤裸々に綴られている。犯罪に巻き込まれそうになることもある。例えば、とある国の路上で突然「この地域だけで使える“ドル”の 2 倍の両替率の通貨を俺は持っている。お前のドルを全て両替してやる。そうすれば、お前の所持金は事実上 2 倍になる」という話を持ち掛けられたそうだ。どう考えても、旅行者を標的にした詐欺行為だ。これは 20 年程前の出来事とのことだが、現代にはびこる仮想通貨等を餌にした詐欺はこれの発展形だろう。時が流れ、詐欺師の魔の手は、むしろあらゆる人に届きやすくなってしまったのかもしれない。

私はできれば危険な目には逢いたくないが、私にとっての「当たり前」が通じない異国で、「当たり前」ではない体験をすることには憧れる。麻婆豆腐の味ですら、世界中に数々の異なる「当たり前」があるのだ。しかし、金銭をだまし取る詐欺行為は、残念ながら場所や時代を越え、似たような手法で横行し続けている。お金の価値だけは、世界中の誰にとっても同じように「当たり前」ということなのか。

ここでもう一冊、『資本主義を半分捨てる』（青木真兵/著 筑摩書房）という本を紹介したい。この本で提唱されているのは、「自分にとってのちょうどよさ」。資本主義社会を支配するのは、たくさん売れるものほど価値があるという「市場の原理」。再生数やランキングなど、その価値は数値化され、他者と比較され、注目されるほどに上がっていく。しかし、そのような価値はしょせん他人に依存したもの。自分自身のニーズを大事にしたっていいんじゃないか？他の誰かと比べないで、自分の感覚にしっくりくる価値を求めていいんじゃないか？このように、世の中が市場原理で単一化されることに警鐘を鳴らす一冊である。

もちろん、資本主義に完全に背を向けることは難しい。例えば異国を旅して回るなら、どうしても多額の資金を工面する必要がある。この本の著者も「市場価値が悪と言う気はない」と述べている。大事なのは「当たり前」のお金の価値を受け入れつつ、「当たり前」じゃないものを尊重する視点を忘れないことではないだろうか。

他の誰かと同じじゃない、私自身が大切と思えるものをたくさん見つけたい。そのためにはきっとお金が必要だけど、その価値は私にとって「当たり前」を超えていくはずだ。（1,296 字）

※繰り返しますが、**実際に応募はしていません。**賞品は魅力的ですが、残念ながらちょっと年齢オーバーです…

作文その②

第 24 回 中学生作文コンクール

作文テーマ：地域とともにつくるサステナブルな未来(その実現のために取り組んでいること)

文字数：1,000～1,200 字

主催：公益社団法人イオンワンパーセントクラブ
後援：文部科学省 ほか
対象：日本在住の中学生
文部科学大臣賞：賞状と図書カード 10 万円分！
応募締切：2026 年 9 月 5 日(土)

◇チョイスした本はこの 2 冊！

『こちら日本中学生新聞』
川中だいじ／著　　柏書房

『科学はこのままでいいのかな -進歩?いえ進化でしょ-』
中村桂子／著　筑摩書房

「学び続けること、知り続けること、考え続けること」

SDGsと言えば、とかく自然環境保全に係る話題が注目されがちなことに、若干の違和感を覚えている。確かに今日においては、気候変動もまちづくりも経済成長でさえも、語る上で環境問題を避けて通ることはできないだろう。しかし、SDGs の 17 の目標には「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」といったもの存在しているではないか。

特に図書館で働く身としては、「“質の高い教育をみんなに”というのは、SDGsが提唱されるよりも遥か以前から、とっくに図書館が実践してきたことなのだよ!」と声高に叫びたい。誰もが好きなように本を手に取り、自分の知りたいことを自由に学ぶことができる。大人も子どもも無料で本を借りることができるし、もちろん借りずに館内で読むのも自由だ。みんなに良質で自由な学びの場を提供する、これはまさに図書館の基本理念なのだ。

持続的な学びは、持続的な未来へと直結する。『こちら日本中学生新聞』(川中だいじ/著 柏書房)の著者は、小学生の頃に行われた地元の市長選をきっかけに政治に興味を持ち、中学生にして個人の発信メディア「日本中学生新聞」を立ち上げる。町のため国のため、各々の信念の下奮闘し、時としてぶつかり合うこともある政治家たち。中にはフェアじゃない手段に訴える問題人物もいる。そのような激動の世界へ、川中氏は新聞記者として臆することなく飛び込み、取材を敢行するのだ。政界を観察し、大人たちとの対話を繰り返して、著者は学び、記者として成長していく。そして一人の市民として、この国の行方をまっすぐに見据えて、情報の発信を続けるのだ。社会を良くしていくには、市民一人一人が学び、考え続けることが重要であると改めて認識した。

『科学はこのままでいいのかな -進歩?いえ進化でしょ-』(中村桂子/著 筑摩書房)という本も紹介したい。自然科学の研究が進むことで、人間も犬もアリも、多数の細胞や DNA から成り立つという点では何一つ変わらない「生物」の仲間であることが明らかになった。しかしその一方で、科学の発展による技術の進歩は、ひたすら人間の暮らしの向上だけを重視してきた。「進歩」を目的としてひたすら上を目指すだけでは、やがて息切れしてしまう。人間だけではなく「生物」全体を見渡して考えることで、持続的な「進化」の道がひらけるのではないだろうか。持続的な未来の実現に向け、このように提唱する一冊である。

『こちら～』の著者は 16 歳、『科学は～』の著者は 86 歳となる年に、それぞれの本を出版している。活躍分野や世代は大きく異なっても、「知ろうとし続けること」「学び続けること」そして「考え続けること」の大切さを信じる姿勢は共通しているように思う。これこそが、持続的な学びが、持続的な未来の実現に直結することの証拠ではないだろうか。人々の自由な学びを、いつまでも応援し続ける図書館員でありたい。(1,181 字)

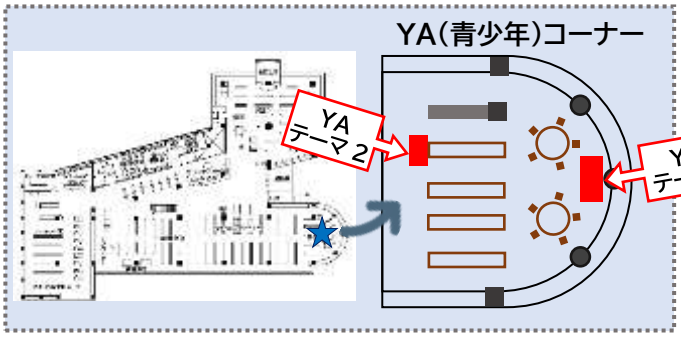
※まさかいないとは思いますが、これらの文章を盗用・改ざんしてコンクールに応募することは NG です！！

ＹＡ担当　こころの句

「知ってるかい？　ＹＡコーナーにも　テーマコーナーあるんだよ」

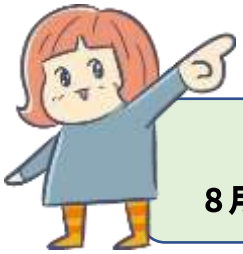
ＹＡコーナーに　**テーマコーナー**があるんだって？
どこにあるの～？

もしかして、あまり知られてない!?
テーマ１と**テーマ２**のふたつあるんだよ～



目立たないとこにあるんだけど、
テーマ１は　私たちＹＡ世代向けのちょっと気になるテーマだし、
テーマ２は一部で評判の**「お願い BOX」**が利用者参加型で面白いよ～
人生に迷ったとき　お願いしてみたら？

へえ～、おもしろそう！　課題で読む本　さがしてみよう！



テーマコーナーは一期一会（いちごいちえ）。思いがけない本との出会いがあるかも！
８月までの**テーマ１**の**「YA 的夏読書 2026」**から私のおすすめを紹介するよ！

NO IMAGE

『わたしの町は戦場になった』

ミリアム・ラウィック／著
フィリップ・ロブジョワ／著
東京創元社

7歳までの美しく歴史に満ちた古代都市アレッポでの平和な生活が、戦闘と暴力に覆われていく。シリア内線下に生きる子どもたちの日常を、1 人の少女が綴ったシリア版「アンネの日記」。

『天国の五人』

ミッチ・アルボム／著
日本放送出版協会

遊園地で働く 83 歳のエディは事故で命を落とし、天国で 5 人と出会う。たいして意味のない人生だったと思っていたが、5 人との対話していくうちに、自分の過去の行動が思いがけず誰かを支えていたと気づき…。

『14 歳、明日の時間割』

鈴木るりか／著
小学館

国語、家庭科、道徳…授業科目ごとに語られる“別々の 14 歳”のそれぞれの、悩みや痛みと希望を抱えた日常が、イケメン中原君を軸に重なりあって・・・。
リアル中 2 作家が描いた、笑えてほろ苦い青春群像。

お問い合わせ：富士宮市立中央図書館　TEL:0544-26-5062